

曇鸞『浄土論註』の新研究

真宗理解の再構築のために

いちのともゆき

市野智行

「編」 (同朋大学准教授)

A5判・並製・三五二頁・本体三、〇〇〇円＋税



親鸞が真宗の大綱として掲げる二種回向。その源泉である曇鸞『浄土論註』を改めて読み直し、真宗理解の再構築を目指す。多様に論じられてきた親鸞思想解明に向け、回向論のゆくえを尋ね、新地平を拓く、挑戦的新研究。

2024年4月刊行

序言

還相回向研究史——変遷と論点の整理——

〔市野智行〕

- 一 対象文献について
 - 二 還相回向研究の変遷
 - 三 還相回向に関する諸理解の整理
- 結論 還相回向研究の展望と課題
- 〔回向〕の成立背景と「普賢行」への深化
- 曇鸞の五念門を考えるために——

〔織田顕祐〕

普賢行と曇鸞の往還回向

〔織田顕祐〕

目次

- 一 世親「浄土論」における五念門と五門行
 - 二 曇鸞の「浄土論」理解の中心
 - 三 曇鸞における「無量寿経」第二十二願の問題 (仏前普賢と仏後普賢)
 - 四 往還回向に関する曇鸞と親鸞の相違
- 結論
- 仏典「解釈」とその可能性
- 曇鸞の「浄土論」註釈を通して——
- 〔黒田浩明〕
- 一 註釈書を研究する、ということ
 - 二 曇鸞が独自に施設する一段について
 - 三 難易二道判が「浄土論註」冒頭に配置される意図について
 - 四 曇鸞の時代背景
 - 五 八番問答にみる曇鸞の機根観
 - 六 十念往生
 - 七 「要求其本釈」の課題性と構成

- 八 文章構造と解釈——十門分科について——
 - 九 仏道観の転換——五念配釈——
 - 十 五念門と成上起下
- 結論
- 〔浄土論註〕の日本的展開
- 源信「往生要集」の五念門説から見えてくる思想的背景を中心に——

〔藤村 潔〕

- 一 「浄土論註」流伝とその展開
 - 二 「浄土論註」成立に至る思想的背景に注目して——
 - 三 天台学派における「浄土論註」の受容
 - 四 「往生要集」と世親の「浄土論」
 - 五 源信における五念門説の変容
- 「浄土論註」の無引用から見えてくるもの——
- 結論
- 清沢満之の他力門哲学
- 曇鸞教学という視座から——

〔川口 淳〕

- 一 「論註」の思想基盤
 - 二 「試稿」の仏教学的背景
 - 三 有限と無限とは何か
 - 四 語れない無限、語る無限
 - 五 無限の擬人化——阿弥陀仏——
 - 六 仏身論としての他力門哲学
 - 七 主伴互具の浄土——浄土の莊嚴——
 - 八 還相回向についての寸考
- 結論
- 各論における有機的結合と今後の可能性

〔藤村 潔〕

〔市野智行〕

【編者略歴】 1983年生まれ。愛知県出身。同朋大学大学院文学研究科仏教文化専攻博士後期課程単位取得後満期退学。博士（文学）。現在、同朋大学文学部准教授。専門は、真宗学・善導教学。【主著】「『法事讃』所説の三往生について」（『東海仏教』第六八輯、2023年）。「凡夫についての一考察——「心眼」にみる善導の独自性——」（『真宗研究』第六三輯、2019年）。

ご注文は FAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

真宗学

注文書

| | | | |
|------------------------------|--|--------------|--|
| (書店名) | | 様冊 | |
| ご担当 | | 市野智行 編 | |
| ISBN978-4-8318-7781-9 C3015 | | 法藏館 三、〇〇〇円＋税 | |
| 曇鸞『浄土論註』の新研究 真宗理解の再構築のために | | ご住所 | |
| お名前 | | お電話 | |
| お名前 | | お名前 | |